

職員・組合員が協力し組合員5,300人の安否確認を開始！



安否確認の電話かけ

みやぎ県南医療生協

みやぎ県南医療生活協同組合（理事長北條裕士）では、震災で被害の大きかった地域を優先しながら、全組合員 5,300 人の安否確認をすることを決め地域訪問、電話での安否確認を開始しました。

地震直後ライフラインはストップした状態でしたが、組合員さんが駆けつけてくれ、3月14日から診療を開始した職員の炊き出しを行いました。幸い建物に大きな被害はなく、職員も大丈夫でした。3月17、18日には柴田町役場の職員50人分の炊き出しも行い、カレーライスや暖かいつみれ汁は、まだ物資の乏しい行政からも大変感謝されました。22日からはライフラインも回復してきています。

医療生協の組合員さんは県南地域を中心に5,300人いますが、津波などで甚大な被害を受けた地域がいくつもあります。中でも亘理町には約30人の組合員さんがいますが、まだ20人と連絡はとれていません。同じく山元町にも約30人のうち、6人と連絡がとれていません。被害の大きかった地域を訪問し被災状況を把握しながら安否を確認していますが、津波の被害はなくても地震の被害が考えられるために、組合員さんと職員が協力しながら全組合員の安否を確認することにしています。3月31日の午後は職員の学習時間ですが、つばさ薬局船岡店の職員も参加して、電話かけグループと地域訪問グループにわかれ、元気に地域に出かけて行きました。



組合員さんの安否確認の地域訪問

山元町役場と避難所を訪問

大阪民医連看護師米村晴美・河村恵子、福井民医連事務局長奥出春行、宮城民医連事務局長天下みゆき、県南医療生協星由美子、太田真理、渡辺建寿さんは、3月31日、津波被害の大きかった山元町役場を訪問し、支援物資を届けるとともに医療支援の要求などがなくないか懇談を行いました。

山元町の人口は16,000人（2,500世帯）ですが、7,500人が被災、525人の遺体が確認されています。行方不明者も500名以上に上るとのことでした。7か所の避難所に1,900人が避難。保健福祉課の渋谷美智子統轄班長は、医療については宮城病院を中心に地元開業医の協力を頂きながら巡回を行っている。また、大きな避難所には保健師の配置もできていると



山元町保健課と懇談

いうことでした。ただ、自衛隊のお風呂があり元気な人は入浴できるのですが、介助の必要な人の入浴ができていないので、困っていますとのことでした。

山元町との懇談を終え、しばた協同デイサービスあおぞらの星由美子施設長は、日常業務を午後4時頃に終えその後2時間位入浴のサービスを提供していきたい。それに向けて全日本民医連から看護師・介護職の応援が貰えればと話していました。また、町からの不足物品で食器類というのがあり、さっそくセントラルキッチンから提供することになりました。



避難所で太田真理さんは恩師と逢い、おやつを貰いました

支援活動の前にぜひ被災地の見学を！

山元町坂本支所の避難所を訪れた看護師の米村晴美さんと河村恵子さんは、避難所の生活が長いせい便秘の人が多かった。果物やヨーグルトがあればと話していました。また避難所まわりをする早朝、坂病院近くの被災地七ヶ浜町をタクシーで見学、被災地をみたあとで避難者の人とお話できたので、どれほど大変だったか察することができてよかったと話していました。ぜひみなさんも見学を！